

輸入は新地金とスクラップが増加

橋本金属・アルミ 橋本健一郎氏リポート②

十二月前半は、イタリア、モンティ首相の辞意による欧州債務問題の不安や、「米財政の崖」問題での与野党のねじれなどマイナス材料もあつたが、中国PMI指数が七カ月ぶり高水準だったこと、工業生産一〇・一%増、小売売上高一四・九%増と好調だった事、さらに中国政府が投資拡大について容認したことを好感し、LMEアルミ相場は二、一三一ドル(現物後場買い)と約四五ドル上昇しての前半締めとなつた。

後半は十月のユーロ圏貿易収支が七九億ユーロと予測の一〇〇億ユーロを大きく下回った事や、PMI指数が四六・三と五〇を大幅に下回った事など悪材料が出る中、HSBCのPMI指数が五〇・九と二カ月連続五〇を上回ったことや、米財政の崖問題が先送り法案(年収三、九〇〇万以下への減税延長)、自動車出削減(二カ月先送り)の可決によつて一旦遠のいた事を好感し、一時一二一ドルまで上昇するも、FOMC議事録で債券買取を含む金融緩和について年内終了との意見が台頭してきた事を嫌気し上げ幅は抑えられた。

一月八日現在、LMEアルミ相場(現物後場)は二、〇二二ドルと一〇九ドル下落してのスタートとなつた。

【前月の経済指標】

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると自動車生産台数は前

年比八・四%減の七六万七、五三〇台

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比三・四%減の二一万四、四二九台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前月比(季節調整済み)七・二%減(前

年比一〇・三%増)の八万〇、一四五戸であつた。

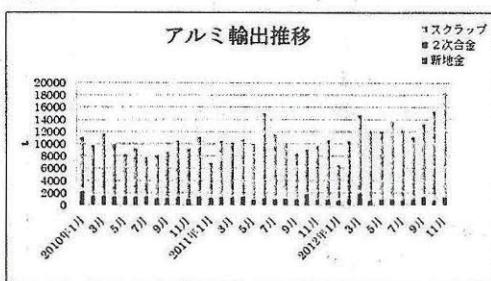
◆貿易関連指標

財務省貿易統計によれば輸出はアルミ新地金が前年比三七・一%増の二二九t、二次合金が四五・四%増の一、〇四一t、スクランプが九五・二%増の一万七、一三九t。輸入は新地金が前年比二八・六%増の一五

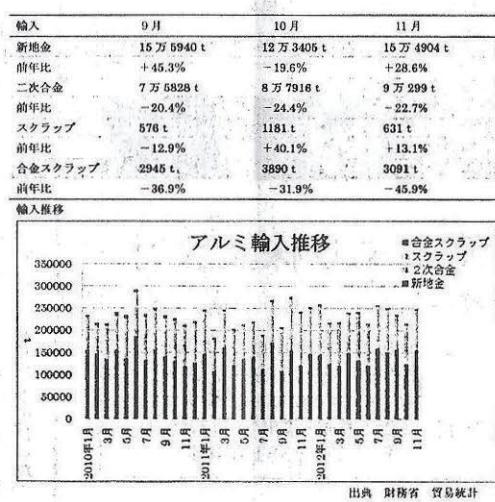
万四、九〇四t、二次合金が二二・七%減の九万〇、二九九t、スクランプが一三・一%増の六三一t、合金スクランプは四五・九%減の三、〇九一t。

	9月	10月	11月
新地金	16万5940t	12万3405t	16万4904t
前年比	+45.3%	-19.6%	+28.6%
二次合金	7万5828t	8万7918t	9万299t
前年比	-20.4%	-24.4%	-22.7%
スクランプ	576t	1181t	631t
前年比	-12.9%	+40.1%	+13.1%
合金スクランプ	2945t	3890t	3091t
前年比	-36.9%	-31.9%	-45.9%

輸出推移



出典 財務省貿易統計



日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比四・四%減の一六万三、六八〇t。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比五・五%減の六万五、八四六tであつた。〔六面に続く〕

アルミニウム一千ドル維持なるかが焦点

スクラップ相場横バイないし若干の上げも

(二面より続く)

法案可決によって二カ月先送りされたものの今後の動向に注視。

自動車生産は前年比八・四%減と一桁悪化に留まったものの、販売の方も三・四%減とまだ減少基調。

新設住宅着工件数は先月に続き二カ月連続二ヶタ増加、前年比一〇・三%増(季節調整済みの前月比七・二%減)の八万〇、一四五戸と復興需要も伴って大幅増。

自動車関連のアルミニウム生産は引き続き前年比五・五%減と二カ月連続の減少、下げ幅は縮小した。

その他、住宅・家電需要が見込める圧延。

押出品生産数量は前年比四・四%減と再び悪化。住宅市場の回復を受けたものの家電の悪化が足を引っ張ったとの見解。

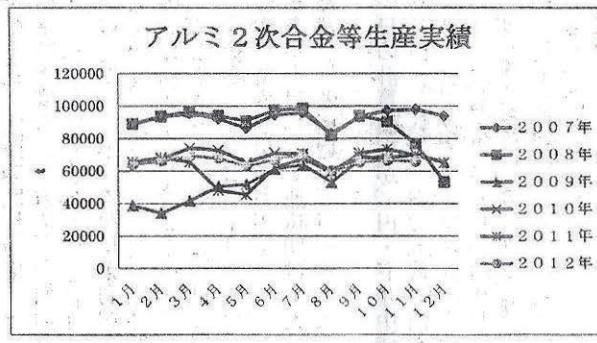
輸出は新地金が前年比三七・一%増の二二九t、二次合金が四五・四%増の一、〇四一t、スクラップが九五・二%増の一萬七、一三九t。内需低迷による輸出増との見解。

輸入は新地金が前年比二八・六%増の二五万四、九〇四t、二次合金は二二・七%減の九万〇、二九九t、スクラップは一三・一%増の六三一t、合金スクラップは四五・九%減の三、〇九一t。住宅需要や割安感があった時の新地金の入荷があつたとの見解。

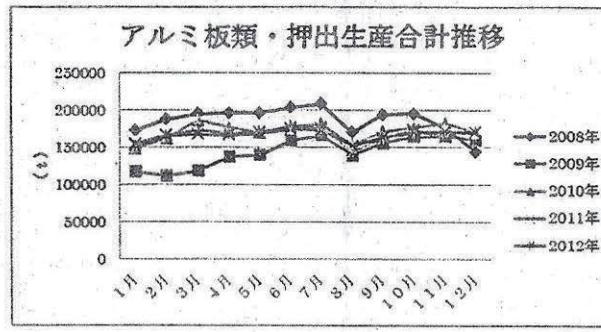
原料需給に関しては先月に続き新設住宅着工数が前年比一〇・三%増と三カ月連続大幅回復の兆しあるもの、最大の需要家である自動車メーカーが今までの悪材料に加え年初、旧正月前などの季節要因から生産量減少による需要減などから買い気薄。

LME価格に関してはやはり主なテーマである「米財政の崖問題」が二カ月先送りされたことで、一月中に新たな展開は考えにくく、さりとて新規プラス材料は望めず、上値は直近高値付近の二、二〇〇ドルが限界。下値は現在二、〇〇〇ドル近辺を推移している事から、欧州債務問題の再燃、中国経済指標の悪化などゴタゴタが加われば下落が考えられ、直近安値一、九〇〇ドルも視野にいるのでは。:

【見通し】
十二月は欧州懸念については先月に一旦去つたものの、米財政の崖問題(減税の終了と自動歳出削減が同時に起こり米個人消費・経済に悪影響を与える)が台頭した。一旦は



出典 日本アルミニウム合金協会



出典 日本アルミニウム協会